

観光創造専攻

平成29年度

前期

日本語論述

10：00～12：00

解答上の注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
- 2 問題紙は、この紙を含めて2枚である。
- 3 解答用紙（25字×40行＝1,000字）は、2枚ある。
- 4 解答用紙は、2枚とも必ず提出すること。
- 5 受験番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 6 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
- 7 下書き用紙は別途配付されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
- 8 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題について、1,600～2,000字の日本語（横書き）で解答しなさい。
なお、適当な位置で改行して段落に分けること。
また字数は改行による空白を含めて計算する。

近年、Virtual Reality(仮想現実)技術の発展が目覚ましく、近い将来、部屋にいながらにして疑似的な旅行体験が可能になると予想されている。こうした技術発展がさらに進んだとしても、人が旅を続けるとしたら、実際に現地を訪れることでしか得られない旅の魅力とは何であろうか。また、その時に観光の形態はどのように変化しているだろうか。このことについて、あなた自身の考えを論理的に説明しなさい。